

国境を越えた兄弟

キム ジェ ヒョン

Mr. KIM Jaehyun

(韓国・神戸大学・大学院生)

皆さん、こんにちは。

今日は、私に新しい“家族”を作ってくれた、新しい“友達”を作ってくれた、そして、新しい“世界”に案内してくれた、国境を越えた兄弟「ブライアン」を皆さんに紹介させていただきたいと思います。ブライアン？当然アメリカの人？イギリスの人？？と思われる方が多いと思います。しかし、彼は神戸に住んでいる 100%関西人です。

「たなかともゆき」彼の名前です。

ブライアンとの出会いは、オーストラリアのアデレードにある小さな家でした。黒いじんべえ、少しのびているひげ、ちょっときつそうな顔、それが彼の第一印象でした。2人とも英語をうまく話せなかったので、簡単な挨拶と自己紹介だけで会話は終わりました。この時は、まさか自分が日本に来るとも、日本語を学ぶことになるとも、夢にも思っていませんでした。そして、この場所にも…。

2ヶ月間、私はブライアンとアデレードと一緒に暮らし、働き、旅をしていくうちに、2人なら何でも出来る、という気持ちになりました。そして、2人の間には、今までに出逢った人達との間では築いたことのないような絆が生まれました。その時、私は日本人、日本の文化に興味を沸き、一度日本にもワーキングホリデーで行きたいとブライアンに話しました。すると、彼は“いつでも良いから来て！来て！”と、私の思いを受け入れてくれました。

私が日本に来る前まで、彼が口癖のように言っていた言葉があります。“日本に来るのにお金も要らないし、日本語が分からなくても良いからとにかく早く来てや”と…。その気持ちに一日も早く答えたくて、私は日本でのワーキングホリデーを急いで準備しました。その当時、韓国人が日本のワーキングホリデービザを取るには年間 1800 人という人数の制限があったため、1回でビザを取るのは難しい状況にありました。しかし、運命だったのか、私は一回で取れたのです。

そして、本当にわずかなお金、全く日本語を話せない状態で来日した私でした。ブライアンはバイト中にも関わらず、神戸市内まで迎えに来てくれました。車に乗って彼の家「不夜城」に出発！すでにブライアンのお母さん、サユリンは私の食事を用意して待っていました。満面の笑みを浮かべて出迎えてくれたサユリンが、今でも思い浮かびます。食事が終わると、サユリンは私をある部屋まで案内してくれました。“ここがジェイの部屋

やから遠慮せずに使ってや”と話してくれました。逢ったこともない、日本語も話せない外国人にこのように親切に…。言葉にはならない嬉しさでした。今では親子のように話したり、ご飯を食べたり…。このように生活していることが、皆さんは想像出来ますか。

日本での4年間の生活の中で嬉しかったことはたくさんありますが、その中で、今日は2つの話を皆さんにご紹介したいと思います。

1つは、ブライアンの提案で韓国の家族にビデオレターを送ったことです。ある日、ブライアンは私に“ジェイの家族のためにビデオレターを作ろう”と言いました。ブライアンは、長い間海外に滞在したことがあり、離れている家族の気持ちをよく分かっていたのです。その時自分ができなかったことを私のために、そして私の家族のために言ってくれました。約1ヶ月間、初めての撮影や編集の作業で、眠られない日々が続きました。しかし、私たちは疲れも忘れ、頑張ってビデオレターを作りました。やっと出来上がったDVD、「神戸より愛を込めて」を韓国に送りました。もちろん韓国の家族は感動！感動！感動でした。このことをきっかけに、家族や友達のために私にできることは何か、ということを考えるようになりました。そして、できることは心を込めて一生懸命にやろう！と決心しました。

もう1つは、ブライアンの一言がきっかけで、今の自分の夢があることです。私が日本に来て4ヶ月が過ぎた頃、ブライアンは“最近、韓流ブームやから韓国語を教えてみたらどう？”と言ってくれたのです。さらに、お金がなかった私のために広告費も払ってくれました。はじめはアルバイトのような感覚で、ただ、お金を稼ぐ手段として、韓国語を教えていました。しかし、しばらくして、私は生徒さんたちの熱意をひしひしと感じました。その時から、私の教え方は変わりました。韓国語の勉強をし、各レベルに合った教材を作成するなど、私なりに出来る限りのことをしました。そうしていくことで、生徒さんたちの韓国語が上達していくことが、私は本当に嬉しかったのです。その時、私の中で、ある夢が芽生えました。それは、日本の温かな面を韓国に伝え、また、韓国の良い面を日本に伝えたい、ということです。その夢に向かって、私は今、大学院では学生として、韓国語教室では講師として頑張っています。

皆さん、人を愛すること、人から愛されることは、世の中で一番美しいことだと思います。国籍が違って、言葉が違って、文化の背景が違って、友情をふさぐことは何もありません。これから先も、皆さんの前にはたくさんの人々が待っています。もしかしたら、人々に傷つけられたり、失望させられたりするかも知れませんが、それでも、希望だけは捨てないで下さい。人に対する希望を捨てなければ、自分に対する希望を捨てなければ、世の中は、人々は、皆さんに奇蹟を見せてくれると私は確信しています。

ご清聴ありがとうございました。